

令和8年6月2日

## 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の 発生に関するお知らせ

令和8年6月1日、県外で感染したと推定される「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」の発生届の提出が市内医療機関からありました。

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は主に西日本で報告があり、最近では関東地域でも患者発生が認められており、本件は、県内1例目の届出になります。

SFTSは、主にSFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染します。

そのため、マダニの活動が盛んになる春から秋にかけて患者が多く発生します。

今後、更に屋外活動が盛んになることから、注意喚起として広く情報提供するものです。

1 患者の概要 関西在住 60歳代 男性  
発症日 令和8年5月24日（届出日：6月1日）  
主な症状 頭痛、発熱、発疹、下痢、意識障害  
感染地域及び感染経路 不明

2 経過 5月24日(水) 頭痛、発熱  
5月29日(金) 県外から来訪後、体調不良により市内医療機関を受診し入院  
6月1日(月) 医療機関からの依頼により市環境衛生試験所において  
検査を実施し、SFTS陽性と判明

※患者のプライバシーの保護のため、提供資料の範囲内での報道をお願いします。

3 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の特徴について

- ・潜伏期間は、6日～2週間程度です。
- ・主な症状は発熱、倦怠感、頭痛、消化器症状（嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血）であり、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴うこともあります。
- ・血液所見では、血小板減少、白血球減少、血清酵素の上昇が認められます。
- ・致死率は10～30パーセント程度です。
- ・発症しているヒトの血液・体液に直接接触することで「二次感染」が起こる可能性があります（空気感染は基本的に想定されていません）。
- ・SFTSウイルスに感染・発病したネコやイヌから感染する事例も報告されていることから、体調不良の原因が明らかでないペットとの接触にも注意をしましょう。

#### 4 予防方法とマダニに咬まれた場合の対応

- ・マダニに咬まれないようにすることが重要です。
- ・草の茂ったマダニの生息するような場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻くなど、肌の露出を少なくすることが大切です。
- ・虫よけの併用も効果が期待されます。
- ・マダニに咬まれているのを見つけたときは、無理に引き抜こうとせず、皮膚科などの医療機関で処置（マダニの頭部が残らないように除去、洗浄など）をしてもらいましょう。
- ・マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、内科などで診察を受けてください。
- ・ペットがマダニに咬まれた場合には、獣医師に除去してもらってください。

#### 【参考】

厚生労働省「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000169522.html>

厚生労働省「ダニ媒介感染症について」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

国立健康危機管理研究機構「マダニ対策、今できること」

<https://id-info.jihs.go.jp/infectious-diseases/tick-borne-diseases/tick-prevention/index.html>

長野市保健所健康課

(課長) 小松 繁之 (担当) 今井 宏恵

TEL : 026-226-9964 FAX : 026-226-9982

E-mail : h-kenkou@city.nagano.lg.jp